

私が綴る ～明治大学物語～

卒業生ひとりひとりが青春を謳歌したそれぞれの〈明治大学物語〉。
今回は 体育会硬式野球部OBの竹内俊也氏と

ハーモニカ・ソサエティOBの楠司郎氏に綴っていただきました。

います。

現在、NHKのスポーツ中継を担当している私は、先日、野球部の別府総監督にお会いして、あらためて明治大学を卒業して、そして野球をやっていた良かったと実感しました。

幼い頃から野球に明け暮れていた私は、神奈川の桐蔭学園から明治大学に入学しました。「学生の本文は勉強だ！」と教えられながらも、高校時代運良く甲子園に出場し、野球には少しばかり自信を持っていたので、明治大学野球部入学などと思っていたほどでした。そんな粋がっていたのも束の間、半年後、自分にとつ

高齢の大監督の下で働くことが私の仕事でした。勝つことに人一倍執着心を持っていた監督に部全体が「勝負」に対して一喜一憂する毎日でした。試合に負けた日は慌ただしく、グラウンド整備、合宿所の掃除、そして、夜の12時を回っても「集合！」の声がかかります。監督から部屋の廊下で寝ている私に「全員起こして来い！練習だ！」と命令が下るのです。2年生である新米マネージャーの私がそのことを皆に伝え、実際に、深夜1時に練習を始めたことも一度や二度ではありませんでした。

その一方で、試合に勝つと、部全体も

「一本のハーモニカからはじまった青春」

それは縁故疎開先での一本のハーモニカからはじまった。明治大学ハーモニカ・ソサエティでの4年間につながる子供の頃のちよつとした出来事。

昭和16年、国民学校入学、学制改革による新しい呼称での、1年生の誕生である。そして終戦、22年には6・3・3制の採用で、新制中学校の第一期入学となった。

食物にも不自由な時代、しかし元気に明るく、よく学び、よく遊んだ思い出が脳裏に焼き付いている。ご同輩如何なりや。

荒んだ世の中に、心和む音楽を、美術を。こんな世代に出会ったのは、筆筒の抜き出しにあった叔父の大事なピカピカのハーモニカ、それは外国製だったと思う。舶来品である。家の者にバレないように、黙って持ち出してはプカプカ、訳の分からぬ「ふし」を吹いていた。練習場所にも困り果て、とうとうトイレ、俗に言う「雪隠」である。

ここからが、我がハーモニカ人生のはじまりである。遠足・学芸会など、人の集まる所では必ず吹かされた。中学・高校も部活で吹きまくっていた。コンクール



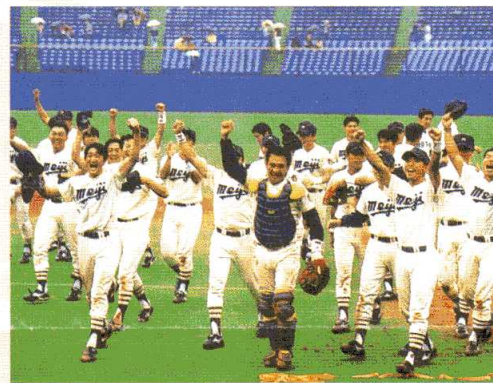
文 楠 司 郎

●58年商学部卒

6年間続け

への参加も。そんなある日、明大OB（ハーモニカ・ソサエティ）の方からソサエティの存在を知らされ、勧誘を受けた。願ったり叶ったりで明治大学入学、いや、明治大学ハーモニカ・ソサエティ入学（入部）したようなものであった。

優さ男、強面の先輩諸氏に混じって1年生から物怖じすることなく活躍できたと思っている。その環境をつくって頂い



言葉は「グラウンド・合宿所の外に行くことになっても野球部の一員として誇りを持って！」というものでした。ここまで、自分を育ててくれた野球部に感謝し、胸を張れた最高の瞬間でした。

スポーツ関係の仕事をしていることもあり、これまで野球部関係者の方々へ度々接する機会がありました。今回の原稿の件で、別府総監督から「野球部の思い出を書いてくれないか？」と言われた時は、正直とても驚いたとともに、部を去る際に言われた言葉を再び噛み締めています。そして、あらためて明治大学と野球部に感謝の思いでいっぱいです。

た諸先輩には、今でも頭が上がらない。思い出の一つに、恒例となった越後湯沢（新潟県）の合宿がある。早春、残雪のある宿泊研修である。酒の味を覚えたのもこの合宿。毎年新入生が潰されていたのを思い出す。

朝から晩までの練習を終えて、よりまとまった部活に発展していった。練習にも全員、目的意識を以って取り組んでいた。春・秋2回の定期演奏会・全日本学生ハーモニカコンクールのエントリーなど、準備する曲数も大変な分量であった。先輩の築いた財産を受け継ぎ、より大きく育て、コンクールに於いては、質と量（部員数）で他校を圧倒、毎回「優勝」と云う二文字を頂いた。優勝曲のレコーディングが、これ又、大変だった。NHKのスタジオ（内幸町）での一発どりだ。今の様なデジタル録音ではない。ミスをするとはじめからやり直し、緊張すればするほどノイズが入ってしまう。ミスは、必ず連鎖反応を起こすのである。次つぎと他人に移って行くので始末が悪い。深呼吸が「当って碎ける」で、やっとOK、すでに全員グロッキー、指揮者石川登先輩

（故人）お疲れ様でした。合掌。一方、定期演奏会、これは昼夜2回の興行？ ゲストもプロも歌い手を毎回呼び出して演出をあれこれ考えたものだ。

もうひとつ楽しみにしていたものがある。地方巡業である。関西・九州方面が多かったが、いい経験をしたと思っている。野球人気が便乗しての、6大学ジャズ・リーグがそれだ。ステージを共にした面々の中には、今もプロ・ミュージシャンとして、第一線で活躍している人も多い。ジャズ・リーグの会場は、確か松竹系の映画館として記憶している。

興行は映画との抱き合わせである。行く先ぎの会場は、どこも超満員、若者で溢れていた。世はまさにジャズブーム、ジャズ真つ盛りりの日本、ダンスホール華やかになりし頃であった。音楽を通じ、学生時代に得た教訓・財産は、今も活きている。会わせる喜びを知り、人の和の大切さを教えられた。

一人では何もできない。お世話になった多くの方々、同じ釜の飯を食った仲間、すべての人に感謝したい。ありがとう。そして我が母校、お、明治、ありがとう。

うあの旧記念館である。旧記念館状態の良いものを室が保管しておいが引き継いだ。

昨年のリパテイメントの折り、記ではどうかと考える声をかけたのだから過程で緑青が飛散が及ぶことがわか

リパテイタワールが再現された。シンボルであり、いくでもあった緑なのお多くの校友やに息づいている。明治大学のお宝

空をも灼き焦が催涙ガスと投石にルチエラタン。そ代を乗り越え、雨ドームの銅板。お室に加工できない同、仕事の合間に良いアイデアが課まで。

■岩田 武（教育

